川上 高司 ブログ アーカイヴ

2016年

7月17日

ヨーロッパを恐怖に陥れたトルコ

7 月 15 日、トルコのイスタンブールで軍事クーデターが発生し軍はトルコをコントロール下に置いたと発表した。この一報に最も動揺したのはヨーロッパであろう。イギリスの EU 離脱の衝撃も収まらない中フランスでは再びテロが発生してさらに混迷を深めていた矢先、イスラム諸国やシリア難民とヨーロッパを隔てる最後の「壁」であるトルコが軍の統制下に入ればヨーロッパの今後はどうなるのか、EU の首脳のみならずアメリカの指導者たちもまさに恐怖のどん底に陥りかねない気分だったに違いない。直ちにトルコのエルドガン政権を支援する声明を発表したその速さに、彼らの恐怖がよく表れている。

オバマ大統領は、モスクワでロシアと協議中のケリー国務長官と電話で打ち合わせ、「トルコ政府を全面的に支持する」と声明を発表した。続いてロシアも懸念を表明、トルコ市民に外出を控えるよう呼びかけるあたりはさまざまな経験を積んできた国家ならではの気遣いである。

イランのザリフ外相も「この地域で軍事クーデーターは許容できない」とトルコの治安を懸念している。EU 大統領に至っては「トルコは EU の盟友である」とまで言い切り、民主主義政権の維持を支持した。多くの国家がトルコの現政権を擁護する声明を発表した。

今回のクーデターでは、エルドガン大統領を支持する一般市民が街に繰り出してクーデターに抵抗するという展開となった。エルドガン大統領自身もすぐにイスタンブールに移動して支持者に囲まれてクーデターの失敗を宣言した。クーデターに荷担した軍人たちのうち 104 人が殺害され、2,800 人を越える兵士が逮捕されて収束した。

今回のクーデーターは失敗したものの、軍がエルドガン政権に不満をかなり持っているという事実ははっきりした。エルドガン政権のどの部分に不満があるのかが問題の本質である。トルコはイスラム国家として欧米の民主主義を積極的に取り入れ宗教色の薄い世俗的社会を目指してきた。最近のエルドガン大統領はむしろその逆で強権的な政治を断行している。今回のクーデターをきっかけにエルドガン政権がますます強権的になる可能性が高い。なにしろ今回のクーデターでは現政権は軒並み欧米諸国からの支持を取り付けているのである。トルコは中東情勢とヨーロッパ情勢の双方を揺さぶる火種となりそうである。

7月17日

ますます分裂の危機にあるアメリカ大統領選挙

7 月 18 日からクリーブランドで共和党の党大会が始まる。ドナルド・トランプが共和党候補になることは間違いないが、その副大統領にだれを指名するのかに関心が集まっていた。共和党の分裂を避けるためにもおそらく副大統領は保守派から選ぶのではないかと憶測が飛び交っていたが、予想通り手堅い保守派を指名してきた。インディアナ州知事のマイク・ペンスは社会保守派の筆頭であり、予備選挙ではトランプを批判していたペンスだったが、トランプは彼を副大統領として指名した。党大会を経て本戦はこの 2 人で闘うことになる。

ペンスはインディアナ州生まれで 2000 年から 2009 年は米下院で実績を積み、インディアナ州に戻って州知事に就任している。早くからティーパーティを取り込んだ筋金入りの保守派である。

今年の大統領選挙はこれまでの選挙とはかなり異なる展開になっている。トランプの放言・暴言の効果か、国民の選挙への関心は非常に高い。史上初の黒人大統領の誕生ということで注目を集めた 2008 年の大統領選挙ですら６２％の関心度だった。今年はそれを上回る７７％という高い注目を集めている。にもかかわらず有権者の６５％は、重要な問題が置き去りにされている選挙だと感じているのである。しかも、共和党も民主党の候補者も党の支持が４５％にすぎない。中身のない選挙戦だというわけだ。

いったい誰がトランプを支持しているのだろうか。それは支持しない人々を明らかにすればよくわかる。直近の世論調査によれば、男性の支持は４９％だが女性の支持は３５％にすぎない。トランプは女性に人気がない。さらに黒人の支持はわずか７％、ヒスパニックの支持は２４％となっている。ヒスパニックの女性に限れば 19 ％の支持しなかい。さらに若者の支持も３０％台で低く、年齢が上がるとともに支持率も４０％台へと上がっていく。

さらにエバンジェリカルの支持はクリントンに比べると圧倒的に高い。つまり、白人男性福音派の中高年以上が支持するのがトランプなのである。トランプ大統領が誕生すれば、アメリカは人種の分裂がますます深まる可能性がある。

オバマ政権の 8 年間で白人はどちらかといえば劣勢にじわじわと追い詰められてきた。その逆襲としてトランプに支持が集まっているとするならば、アメリカ社会の深刻な分裂が懸念される。ダラスでは黒人が射殺された報復として 5 人の警察官が射殺されるという事件が起こっている。不穏な空気の中での共和党大会が開催されるのである。

世論は、人種問題をうまく扱えるのはクリントンであると６６％が考えている。トランプは差別主義者だから人種問題は扱えないとの見方が強い。トランプが大統領となるアメリカは今以上に社会の分裂が深化し危機的状況に陥るかもしれない。そして副大統領が筋金入りの白人保守派であることから、ますます分裂の危機は高まっている。